



“たけのこ”オープン

「たけのこ」がオープンし、2か月半ほど経ちました。一時保育やミーティングでの利用も行われ、少しずつにぎやかな施設になってきました。もっと利用しやすい施設になるよう、努力したいと考えていますので、皆さんもどしどしご意見を聞かせてください。



「たけのこ」には男女共同参画推進室の事務室のほか床暖房完備の保育室、シャワー、トイレ、湯沸し室、ウッドデッキ、緑眩しい人工芝の庭があります。



利用には事前の申込が必要です。一時保育は生後8週間の乳児から小学6年生までの児童が対象で、本学と協定を結んだ保育事業者が担当します。

「たけのこ」は、平日の8:00～18:00にオープンしています。本学の役員、教職員、学生などが、「一時保育」「男女共同参画に関する会議や研究会」などの目的で利用できます。時間外でも一部利用が可能です。利用を希望される方は、男女共同参画推進室までお問い合わせください。

農学部で育児休業教員の代替特任助教採用

農学部は、出産と育児のために長期休暇・休業をとる教員に替わり授業や学生の指導補助を行う特任教員を6月から10カ月間の有期で採用します。これまで教員が育児休業をとる場合、講義のみを担当する非常勤講師で対応してきました。今回採用の特任教員は、研究室に常駐して卒論や修論などの研究指導も行うのが特徴です。育児休業を取得する女性教員から申出を受け、農学部が本学で初めての取り組みとして行ったものです。「10カ月という短期の任期付採用のため適任者が見つかるか危ぶまれましたが、採用までの一連の手続きが、学部教授会・当該学科の理解のもとで短期間のうちに進められました。女性教員の意思を制限するようなことがないよう、また、女性教員が育児休業を取得しやすいような特任教員採用の仕組みが必要でしょう。さらに、今回おいて頂く先生にとって、本学での10カ月が多方面から評価されることを望みます。」と鈴木農学部長は話していました。今回の事例は、仕事と家庭の両立をサポートする好事例といえます。

紹介！ 男性の育児休業

私が育児休業を取得した理由は、当事妻が仕事を始めたばかりであり、その仕事が軌道に乗るまでは私が育児を担当するという理由からでした。子育てに関しては、周りの方から「子育てはとても充実している反面、苦労も伴う」という話を良く聞かされたのですが、私の娘に関しては病気らしい病気もせず、母親が仕事で夜遅くまでいなくてもほとんどぐずらずに、私とご飯を食べた後はスヤスヤと眠ってくれ、まったく苦労がありませんでした。そして、何より実感したことは、娘と過ごした1年9カ月は私の人生の中でもっとも素敵なまるで宝物のような時間であったということです。今は私も復職し、妻の仕事も軌道に乗ってきたので、育児は妻が中心になっておりますが、父と娘のこの1年9カ月が少しでも娘の成長にプラスになるようにと願う今日この頃です。末筆になりましたが、育児休業を快く承諾してくださった上司はじめ温かい目で見守ってくださった周りの方に感謝の意を表して結びとさせていただきます。ありがとうございました。(人事・労務チーム 久保田 政雄)

男女共同参画クローズアップ

大切なお知らせ

①研究支援員制度の利用

本年10月から翌年3月の間に研究支援員制度の利用を希望する方は、8月に募集しますので、「利用申請書」を提出してください。緊急な利用を必要とする方は、男女共同参画推進室までお問い合わせください。

②メンティの募集

メンター制度を活用したメンティ(相談する側の人で、女性大学院生や若手の女性研究者など)を募集しています。メンティは、メンターリスト(学部の学務係・教務係にあります)の中から自由にメンターを選ぶことができます。申込・相談は、男女共同参画推進室までお願いします。

③学会参加時保育支援制度

学会参加のためにかった保育費用の1/2を支援します(ただし、年間10,000円を限度)。申請書・保育費の領収書・学会参加を証明する書類を男女共同参画推進室まで提出してください。

④男女共同参画相談

女性男性を問わず、研究・教育を続ける中で生じる様々な悩みを相談できます。何でも相談の窓口で、もちろん秘密厳守です。研究者を目指す大学院生や学部生の相談も歓迎します。新たに男性の相談員が加わり、相談員が2名体制となりました。相談は原則として事前予約が必要です。

野口基子相談員：054-238-4789(金曜、13:00～16:00)

の場合啓一相談員：054-238-3052(月～木曜、9:30～18:00)

⑤浜松キャンパスで夏休み学童保育実施

浜松キャンパスで春休みに引き続き、夏休みも小学生を対象とした学童保育を実施します。利用申込は、7月4日(月)の午後5時までです。利用希望の方は、利用申込書を男女共同参画推進室まで提出してください。くわしくは、チラシ等をご覧ください。

男女共同参画推進委員会と推進室の新たな顔ぶれ

大阪から着任しました。
公務員時代には児童福祉も担当しました。
現在は、主に少子化について研究しています。
気軽に「たけのこ」を覗いてください。

的場啓一(特任准教授)

男女共同参画推進室のメンバーに入れ替わりがありました。新たなメンバーで活動しますので、よろしくお願いします。
サッカー・ラグビー場西側の「たけのこ」には、この2人がいます。

男女共同参画推進委員会

- 船橋恵子(男女共同参画担当副学長)
- 山崎裕史(総務・財務・施設担当理事)
- 中村和夫(法務研究科教授、学長補佐)
- 小谷順子(人文学部准教授)
- 石原剛志(教育学部准教授)
- 関根理香(理学部准教授)
- ☆鮫島玲子(農学部准教授)
- 小野 仁(工学部准教授)
- 藤井史朗(情報学部教授)
- 吉川真理(大学院法務研究科教授)
- 荻野明久(創造科学技術大学院准教授)
- 小南裕子(電子工学研究所准教授)
- 渡部英樹(総務部長)
- ☆大高弘士(学務部長)

☆印は新しい委員です。

豊かな自然の中にあるこの施設で働きながら、
現在も小学生の子育て奮闘中です。
育児のこと、仕事のことなど、楽しくお話し
しましょう。

戸塚裕子(室員)

男女共同参画推進室

- 船橋恵子(室長、男女共同参画担当副学長、人文学部教授)
- 中村和夫(室長補佐、学長補佐、法務研究科教授)
- 渡部英樹(室長補佐、総務部長)
- ☆的場啓一(室員、特任准教授、相談員)
- 澤田利夫(室員、人事・労務チーム人事・労務課長)
- 中村幸夫(室員、人事・労務チーム副課長)
- ☆久保田政雄(室員、人事・労務チーム主査)
- 勝間田真義(室員、人事・労務チーム主任)
- 清水千佳(室員、人事・労務チーム主任)
- ☆戸塚裕子(室員)
- 野口基子(特任教授、相談員) ☆印は新しい室員です。

男女共同参画推進室のメンバーは昨年度に比べ2名減員となりましたが、力を結集して静岡大学に貢献したいと考えていますので、ご協力をお願いします。また、男女共同参画推進室の事務室が移転しました。「たけのこ」のオープンに伴い、事務室が本部棟の5階から「たけのこ」に移りました。以前より少し狭くなりましたが、新しい施設なので心地良さ抜群です。「たけのこ」の見学も大歓迎です。是非、できたてホヤホヤの「たけのこ」に足を運んでみてください。

★ 浜松での「学童保育所」が大成功！

春休み期間中に試行された「学童保育所」が参加者のアンケートで高い評価を得ました。夏休みに再実施を希望する声も多く寄せられています。今回の試行結果を受け、夏休み期間中の実施について厳しい予算の中、開催が決定されました。



★ 次世代育成支援行動計画の進捗状況調査

現在、第3期次世代育成支援行動計画が平成22年4月1日から2年間の期間で推進されています。計画期間の半分以上が過ぎたので前半の進捗状況を調査します。調査票が届きましたら、ご協力をお願いします。

★ おもちゃ、絵本など募集

「たけのこ」では一時保育を行います。子どもが遊ぶ「おもちゃ」「ぬいぐるみ」「絵本」などが不足しています。家で遊ばなくなった「おもちゃ」などで使用に耐えうるものがあれば、ご寄附をお願いします。

12:00~13:30

★ 「“たけのこ”ランチミーティング」の開催

毎回あるテーマに合う方々に「たけのこ」に集まっていただき、意見交換・情報交換をします。初回は6月30日(木)、テーマは「子育て」です。是非「たけのこ」に集まってください。なお、ランチも注文(450円程度)できますので、希望者は前日の午後5時までに男女共同参画推進室までご連絡ください。

女性研究者Now！

静大に赴任して6年が経とうとしています。6年前、初めて足を踏み入れる土地や職場に、多少の緊張感と不安を抱いていたのを今でもはっきりと思い出します。緊張、不安、期待、そのような様々な思いが混在しながら、静岡での生活がスタートしました。そんな中、共に働く仲間や学生達に支えられながら、少しずつ人と人とのネットワークを広げていくことができました。今ではすっかり環境にも慣れ、多くの人たちと共に研究や教育に力をそそぐことができています。

研究や教育を通して、私がいつも考えることは、自分に与えられた場所で問題意識を持ちながら自分にできる「何か」を探すことの大切さについてです。自分の役割を自覚すると共に、自分にできる「何か」を常に探すこと、さらに共に働く仲間や学生達から影響を受けながら、自分の可能性を開いていく努力を怠らないことが大切だと考えています。

最近では、教育学部にも女性研究者が増えており、学科を越えて様々な交流をさせていただく中で、先生方から多くの影響を受けています。交流する中で伝わってくる先生方の研究に対する姿勢や信念は、同じ研究者として背中を押される思いがしますし、また教育に対する思いや様々な生活スタイルは、私自身のそれを客観的に見つめなおすきっかけを与えてくれます。今後も、人と人とのネットワークを大切にしつつ、さらにそれを広げながら、研究や教育に取り組んでいきたいと考えています。

(教育学部 美術教育講座 准教授 高橋 智子)